

- 祝『寺谷用水旧絵図』  
磐田市指定文化財に！・・・P1～3
- 地域と考古学の会  
シンポジウム開催のお知らせ・・・P4
- 『カモン！大池を歩こう』佐藤清隆・・・P4

祝

『寺谷用水旧絵図』

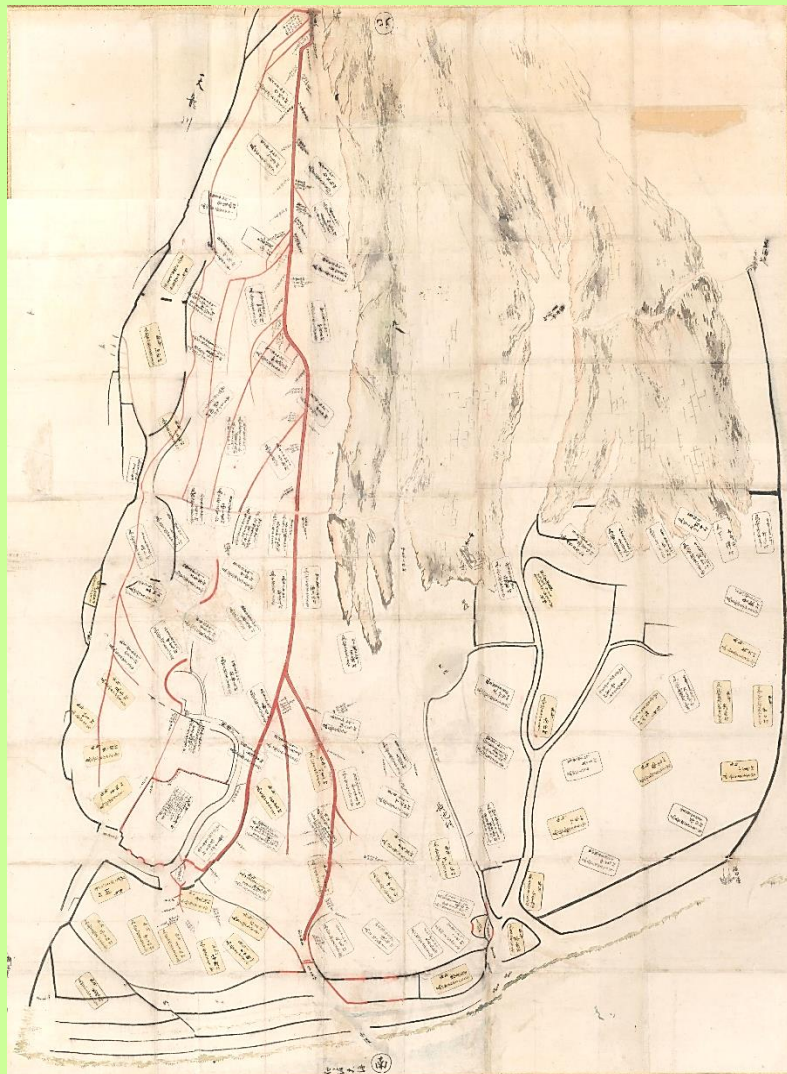
磐田市  
指定文化財に！



文化財課キャラクターともちゃん

磐田市文化財保護審議会の答申を受け、令和5年11月9日に『寺谷用水旧絵図』が磐田市指定文化財（有形文化財/古文書）に加わりました。これで、市の指定文化財は137件になります。

寺谷用水と『寺谷用水旧絵図』について、また、絵図の公開情報を紹介します。



寺谷用水旧絵図

(縦2.85m 横2.3m 磐田市歴史文書館蔵) 上が北、赤線が寺谷用水

■寺谷用水とは■

天正16年(1588)から、当時、遠江を支配していた徳川家康は天竜川から導水する寺谷用水の開発に取りかかったといわれています。

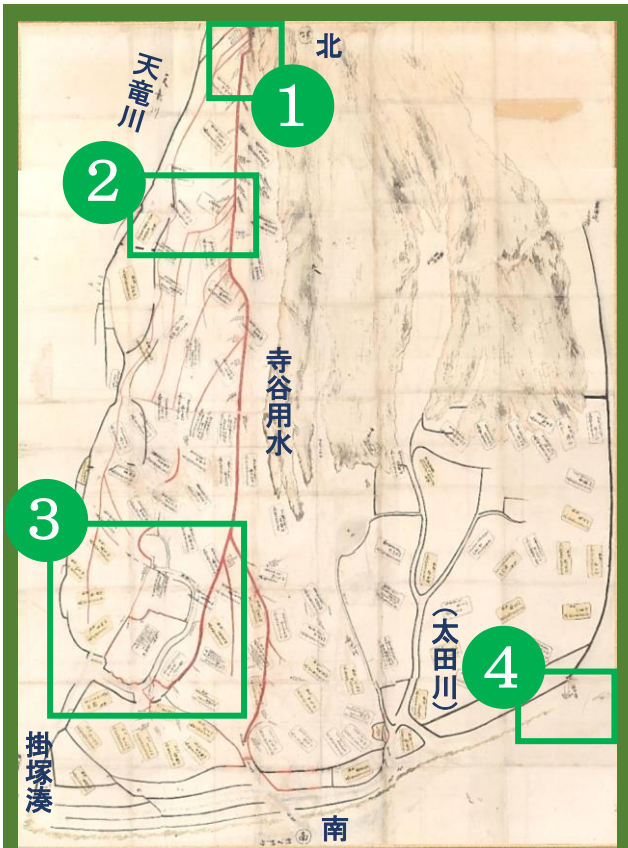
家康の命を受けた伊奈忠次いなただつぐと地元の代官であった平野重定ひらのしげさだは、天正18年(1590)に寺谷村から浜部村まで約12kmの用水路の開削に成功しました。灌漑面積は、73ヶ村(後に80ヶ村)、約2,000haに及び、これにより2万石もの収穫をもたらしました。

その後400年間、幾度ものいりひ堰樋(水を引き入れるための水門)の修理・取り替えや管理組合の変遷を経て、寺谷用水は守られてきました。そして、令和4年10月6日、寺谷用水は世界かんがい施設遺産(※)に登録されました。

(※) 建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したものの、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰するために、国際かんがい排水委員会が創設した制度。

## ■ 寺谷用水旧絵図とは ■

寺谷用水を中心に、用水の受益地のある村々を描いた絵図です。寺谷用水の恩恵を受けた村の情報や、寺谷用水から田にどのように水路を導いたかがわかる貴重な資料として、今回、磐田市の指定文化財になりました。



寺谷用水旧絵図  
（紺色の文字は文化財課が記入。( )のあるものは絵図に記載は無いがわかりやすくするために入れた。)

### POINT

#### 1 堰樋と取水位置



寺谷用水旧絵図部分 四番堰と取水位置  
（紺色の文字は文化財課が記入）

絵図上、南北を貫くように赤線で寺谷用水が描かれています。最上段に寺谷用水四番堰があり、取水位置が「〇〇井」として記入されています。

### POINT

#### 2 現在に残る地名も！詳細な集落の情報

寺谷用水の受益地の村はすべて書き込まれており、領主の名前、村名、石高も記入されています。

また、集落名は四角で囲まれており、現在は色あせて見にくくなっていますが御料（幕府領）は色付けもされています。

絵図上には80ヶ村もの情報があり、現在に残る地名も数多く記されています。



寺谷用水旧絵図部分  
集落拡大（紺色の文字は文化財課が記入）

POINT

### 3 内容から紐解く絵図の年代

『寺谷用水旧絵図』には、描かれた年代が記されていません。そのため、絵図に描かれた情報を手掛かりに作成された年代を判断しています。

年代を知る材料の1つ目は、仿僧川です。この絵図では、天保2・3年(1831、1832)に太田川に取り付けられた仿僧川が、天竜川東派川に流れ込むように描かれていることから、それ以前に描かれた絵図であることがわかります。

2つ目は、領主の名前・役職名です。1つ目の情報を踏まえた上で、領主の生存年や在職期間などから宝暦年間(1751～1764)の製図と想定しています。



寺谷用水旧絵図部分 天竜川東派川に流れ込む仿僧川 (紺色の文字・川の水色は文化財課が記入)

POINT

### 4 寺谷用水以外の情報も！絵図の下部に湊と船



寺谷用水旧絵図下部

福田湊と防砂林 (紺色の文字は文化財課が記入)

絵図の最下部には遠州灘が描かれ、海岸線に沿うように防砂林が描かれています。また、西端には掛塚湊、東端には福田湊があり、いずれもその近くに船が停泊しています。

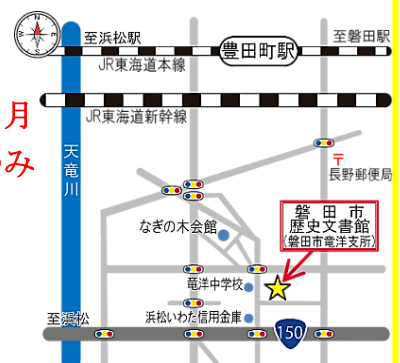
絵図にはこのほかにも、東海道や中泉代官所と思われる建物なども描かれています。

## 企画展で『寺谷用水旧絵図』(原本) 公開

現在、歴史文書館で開催中の企画展『大地を潤す寺谷用水』にて、『寺谷用水旧絵図』の原本を特別に公開します。ぜひ、ご覧ください。企画展のみどころは、文化財だより第223号で紹介しています。右二次元コードからご確認ください。

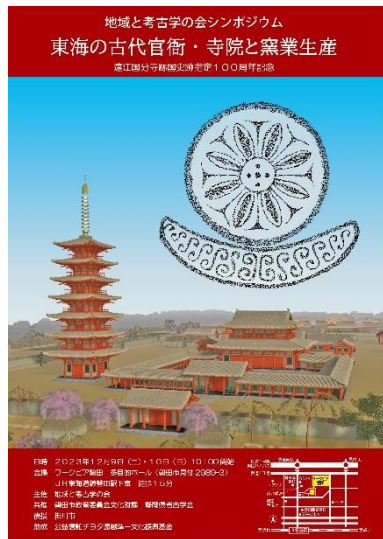


- ・企画展開催期間 12月22日(金)まで
- ・休館日 土曜日・日曜日・祝日
- ・特別開館日 11月23日(木・祝)、12月9日(土)、12月16日(土)『寺谷用水旧絵図』原本は特別開館日の3日間のみ展示。(それ以外の期間はレプリカを展示しています)
- ・開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで/入場無料)
- ・会場 磐田市歴史文書館(竜洋支所内展示室1階・2階)
- ・問合せ先 磐田市歴史文書館 電話:0538-66-9112



# 地域と考古学の会シンポジウム開催のお知らせ

## 東海の古代官衙・寺院と窯業生産



シンポジウムポスター

遠江国分寺跡国史跡指定 100 周年を記念して、シンポジウムを開催します。内容は、古代の国府や国分寺から出土した瓦や土器の生産と流通、東海地方の地域ごとの特色についてです。ぜひご来場ください。

- ・とき 12月9日(土)・10日(日)  
午前10時~午後5時(10日は午後4時まで)
- ・会場 ワークピア磐田 多目的ホール(見付2989-3)
- ・定員 先着100人 **参加費無料**
- ・申込 不要、直接会場へお越しください
- ・その他 シンポジウム資料集は有償配布になります
- ・問合せ先 磐田市教育委員会文化財課

電話:0538-32-9699

### 職員リレー コラム

### カモン!大池を歩こう

佐藤 清隆



シッペイデザインマンホール

「JR 磐田駅南口を出て、マンホールのしっぺいデザインをたどって行くと大池へ着く?カモしれない」という磐田の都市伝説をご存知ですか。

実は、マンホールは途中で無くなってしまいますが、最後のしっぺいが指差す方向を信じて歩くと、やがて大池の北西辺りに着き、遊歩道を南西の隅まで進むと、条件が良ければ左手の池越しに遠く富士山が見えます。この富士山を、今年話題の徳川家康も眺めたのだなと思いましたが、すぐに全く同じ富士山ではないことに気づきました。

富士山は、宝永4年(1707)の「宝永大噴火」により、南東の中腹に火口跡のある姿になりました。つまり、元和2年(1616)に死去した家康は、噴火後の現在の姿の富士山を見ていないこととなります。

さて、家康は獲物となるカモ類が多い冬に、度々中泉御殿に宿泊し、大池周辺で鷹狩りを楽しみました。それから、約400年後の大池の周りは、1.3kmのウォーキングコースとなり、多くの健康ウォーカーでにぎわっています。健康オタクといわれる家康が好んだ大池には、空気も道もきれいな「健康コース」がお似合いカモ。



富士山と大池

**編集後記** 今年も早いもので12月。どんな一年でしたか?私は、「家康」関連の仕事が多い1年でした。中でも春の企画展が思い出深いです。来年もよろしくお願ひいたします。

発行: 磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所: 〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話: 0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 **磐田 文化財だより**

検索

